

東亞建設民族人口資料 三五

二十七年四月十五日

大東亞建設のための大和民族の人口配置に於て留意すべき諸点

(一) 衣食住の問題

厚生省 人口問題研究所

BSO. 41
90
1-35

M93A05
25

大東亞建設のための大和民族の人口配置に於て留意すべき諸点

(一) 衣食住の問題

目次

緒

論

總説

(一) 生活様式の問題

(1)	住居問題	一五
(2)	栄養問題	一七
(3)	飲料水問題	二八
(4)	衣服問題	二九
(5)	運動(スポーツ)問題	三一
(6)	教育問題	三五

(7) 實驗基地の設置

大東亞建設のための大和民族の人口配置に於て

留意すべき諸点

(一) 衣食住の問題

緒論

現在の大東亞共榮圏の範圍は赫々たる皇軍戦果の延長と強度によつて規定されてゐるが、それが眞に建設されるためには更に軍事力以外に、政治、經濟、文化、植民を通じた、それらの内部の諸民族と日本民族との結合紐帶の鞏化によつて始めて實現されるのである。

大東亞共榮圏の確立は單に兵力、軍事基地、原料資源、交通線の強化を意味するのみでなく、更に日本民族の生活空間の擴大を意味するものであつて、それは東亞各地域を有機的一環となすところの自給自足の區域の建設である。従つてこの圏内に於ける物的・人的資源に基いて軍作戦の遂行を容易ならしめ國防經濟の自立性を永遠に確保するためには、益々國內の民族人口の増強を計るとともに共榮圏内の諸民族を日本と協

カ提携せしめ、彼等をして單なる大東亞戦争の傍觀者たらしめず究極に於て日本と共に戦ふとする積極的な意志を持つところの同志的一体感を植付けざるまで行かなければならぬであらう。

現に大東亞戦争が繼續中である限り、米、英、蘭の阻害勢力はその攪乱工作によつて日本を指導者とする共榮圏の完遂を極力妨害するため、諸民族に働きかけてゐることは言を俟たない。従つて我々は共榮圏内の諸民族の動向及び文化の段階、日本に対する敵性の強弱、有無に應じて、その指導態度に強壓懐柔の程度を異にしなければならぬのである。もとより八宏一字の精神は究局の目的を同化に置くものであるが然しこのことは現に異なるものと同じものと見ることではない。それは目的であり結果であつて前提でなく原因ではない。「まつらはざるものは飽くまでも征つし」のが古代よりの皇國の精神であつた。

共榮圏内の諸民族は現在その文化の段階に於て、精神の構造に於て日本人とは同じではないのである。「同じからざるもの」を「同じきもの」とし

て取扱つたところに在來の同化主義の錯誤が存してゐたのである。

例へば幼稚園の兒童を大學生と同じに取扱ふことは反つて幼稚園の兒童にとつては迷惑であらう。民族が異なれば一方に於て同化せんとする行動はその反動として同化されまいとする異質性の保持に導く、逆に支配民族が離隔せんとすれば逆つて其の利益に均霑せんとしてその異質性を放棄するのである。即ち孫子の所謂「補えんがために放ち、近づけんがために遠ざける」ことが必要である。同化政策は指導民族がその水準を被指導民族の地位にまで低めることによつて行はるべきものではなくして彼等を指導民族の地位にまで引上げる育成によつて行はるべきものである。

占領地統治の根本方針に關しては、開戦と共に軍當局の左の如き方針が確立せられ現にこれに則つて統治されてゐる。その一つは現地の實狀に即する如く行政を行ふことで、残存統治機構は、なし得る限りこれを利用するとともに、在來の風俗習慣等は十分これを尊重して、不

必要なる容喙または改正等はこれを戒めて、もつて原住民の心理に適應するごとく統治することにはされたのである。

その二は努めて現地人を利用し、日本人は樞要なる位置のみ止むることである。日滿支建設なかんづく國內軍需産業方面に、大なる人不足を告げてゐる現状に鑑みて、日本人の使用はなし得る限りこれを制限して、努めて多くの現地人を利用することにしてゐる。

その三は原住民の宗教を尊重することである。

その四は原住民に対しては、恩威併用し、苟くも小乘的愛撫に墮さざることである。日本人は兄であり彼等は弟であるが、親しい仲にも礼儀があるべきで、日本人は指導者であることを、十分認識し、また彼等には十分認識せしめ、嚴然たる秩序を保ちつつ、相携へて新東亜建設へ邁進せねばならぬ。

その五は敵國人に対しては假借なき態度をもつて臨むことである。その六は樞軸人に対しては友好的態度をもつて臨むこと、今次戦争は

白人対有色人種間の民族戦争ではないから、樞軸國人に対しては、一概に白人として排撃して米英が企圖してゐる人種闘争の形態に導かないことが肝要である。

その七は華僑を十分に利用すること。南方経営にあつては華僑の勢力を重視することは出来ない。華僑利用に關しては十分着意しなければならぬ。これがためあらゆる手段を盡して蔣政権よりの離反、わが施策への協力を策することが必要であるが、苟くも彼等を増長せしめるがごときことなく、わが命令を奉じない施策に協力せざるものは、悉くこれを一掃することが肝要である。

その八は現地住民に対しては相當の負擔を負はしめることである。新東亜建設は、單に日本のためのみでなく、アジア全民族のためである。日本人のみが苦しみ、占領地住民のみ直ちに天國の生活を與へることは本旨とするところではないのである。

九番目には進出邦人を厳選し且つ國策に反するが如き行動をなさない

めざる事である。進出邦人は中央に於て嚴選し現地係官において縁故者等を呼び寄せることは出来ないことになつてゐる。將來は進出邦人中幹部たるべきものに対しては所要の訓練を施し大東亜建設の理念を徹底せしめて進出せしむべく計畫中である。

十番目は原住民に対して日本語の普及を図る事である。在來の學校その他各種機關を利用してこゝ小普及を図る事が必要である。

民族人口の質・量發展の國家的認識と事實の前提なくしては日本の高度國防國家の完成は困難であり、東亞新秩序の建設なくしては日本民族の生存権は確保さず得ないのである。

内地に於ける民族人口増加強策は既に昭和十六年一月二十二日の臨時閣議に於て決定された「人口政策確立要綱」を如何にして實現するかに務つてゐるが故にここには觸れない。

大東亜戦争は持久戦である。持久戦は云ふまでもなく長期に亘る消耗戦であつて、戦争形態が持久戦となり全体戦へと發展し、戦線も支

那全土から更に南洋に擴大した今日、戦争の必要とする兵員、労働力を充分に供給するためには民族人口の擴充強化が要求さる。

(1) 徵兵年齢の引下へ兵力増加のため

(2) 駐屯兵の内地交替又は歸國休暇へ産兒増加のため

(3) 台湾人、朝鮮人の労働勸誘、強制徵用へ勞力不足填保のため

(4) 東亞共榮圈諸民族の軍隊、外人部隊の編成、利用

(5) 妻子を伴ふ屯田兵制の施行

(7) 敵性國人所有地の沒收と歸還兵士への分讓

大東亞共榮圈をして英、米、ソ、蔣の聯合勢力に対抗し得るだけの充分な結合体たらしめるには單なる貿易的經濟連繫のみを以てしては不能である。それは同時に政治的、文化的、軍事的共同防衛の新体制の確立を俟つて始めて完璧になるのである。そのためには指導者たる我が日本が、それらの國に於て内部から其の指導勢力を維持し、敵性國家の妨害工作に対抗するに充分な量の大和民族の血、がそれらの土地に植えら

小なければならない。即ち充分な人口配置が実現されなければならぬ。

(一) 總 説

東亜共栄圏内に於ける内地人口の配分に関して

- (1) 原住民又ハ華僑と生存競争に陥らざる産業、職業を撰擇すること
但し華僑に対しては漸次其の自立性を削減すること
- (2) 既應の生活情況に可及的に類似の職業、移住地を決定すること
- (3) 新風土に適した生活様式を採用すること
- (4) 移植民に対し指導民族としての自負心、資源開發利用法、原住民との接觸態度等に関し豫め訓練すること
- (5) 共栄圏の全般地域に数ヶ所の基地を設け、此を通じて集團的に各地に移住せしめ、独立、分離的移住、即ち棄民となる怖れある移住形式は極力避けること。
- (6) 各地に移住基地日本人町を設け、之を相互有機的に關聯せしめ且

- つ母國との連絡を緊密にすること
- (7) 單に官吏、サラリーマン階級のみにならず、可及的に各職業層の人口を送出すること
- (8) 現地除隊により植民配分を行ふこと
- (9) 配属者を可及的に伴ふこと
- (10) 絶へず新なる生産年齢層の男女を植民地に送出すること
- (11) 雑婚及混血兒の發生を極力防止すること
- (12) 第三世の教育に於ては可及的に内地留學を行ふこと
- (13) 在外邦人の徴兵検査は現地で行はず内地で行ひ且つ猶豫期間を設けず、これを機會として合格、不合格に拘らず訓練し、日本精神の高揚とともに母國を視察せしめること。
- (14) 移民は民族發展の先驅者として敬意を表すること
- (15) 慰安、衛生、教育には特に注意を拂ふこと
- (16) 生活及び經濟條件を内地及び他民族より良好ならしめること

(7)

未開地開拓には熱帯風土病による犠牲を避けるため先づ出来るだけ原住民、支那人、印度人を使用して開拓し、而る後に日本人が多数入植すること。

開拓移住の問題は現在の日本にとって、極寒の北滿と極暑の南洋といふ両極的に異常な氣候風土と隣関して考へなければならぬ。

現在までの我々の科学的知識及びその應用力を以てしては氣候風土そのものを改変することも不可能である限り、我々は如何にしてこの両極端の氣候的條件を克服して、それに馴化する事が出来るであらうか。

それには氣候の變化、その特異性を豫め調査し、確認し、それに適應した生活様式と生活態度とを確定するところの環境の社會生物学的研究と技術とが開拓政策に先行し、その基礎に置かなくてはならぬであらう。

内地の氣候に適應して作られてゐる内地の生活様式を其の儘氣候風土を全く異つた新天地に持つて行くことは、自からその生活を苦痛ならぬ

めるものがある。このことは特に衣、食、住の問題に見られる。

例へば日本の着物は大体において熱帯向に出来てゐるのであつて、下から入つた冷い空気を暖めて上から放り出す構造を持つて居るのである。従つて戸外に於ては男子は總て洋服を着てゐるのに、内地婦人のみが極寒の満洲に移住しても尚この熱帯向の形式の着物で冬を通さうとする。これは、其の構造上に無理があるのである。疊の上に座る生活には日本の着物は適當してゐるが防寒と労働には甚だ不便なものであることは、既に我々の痛感するところであり、又判身如き生肴を好んで食ふことは種々の寄生虫、傳染病に対する日本人の罹病率を高めくわゐる。

在來の日本にはこの新しき環境に適應するための衣食住に關する科學的研究が足りなかつた。開拓政策を成功せしむるためには、海外に於ける異様な風土に適應しうるところの日本民族向き生活法設計の確立から始めなければならぬのである。そのためには我々は今まで熱帯に關してなされた研究及び經驗の綜合的な知識を持たなければならぬ。

特に熱帯の居住適應性の問題は最も欧米學者の注意を引いてゐる問題であると同時に彼等は又その失敗と成功の歴史を持つてゐるのである。

云ふまでもなく熱帯の居住適應性を決定するものは社會、生物學的構造とその風土的條件を克服する科學の力である。汽船、鉄道、自動車、飛行機等の近代の交通機關は熱帯の人間に必要な休養と食料を持ち來した。それは新しい生産物に対する市場を開いた。それは滞在者や移民に比較的涼しい熱帯高地又は温帯に休養することをも可能ならしめた。

運輸の問題は熱帯高原の社會に經濟的重要性を興へたが更に衛生、防疫の進歩は熱帯を居住地たらしめるに最も大なる役割を演じた。ラヂオ、新聞、電話の發達は其の知識的精神及びニュースを短時間に全世界に普及せしめることを可能ならしめた。かくして交通、通信の發達は母國と植民地の間の距離を短かくし、世界を縮小したのである。

共榮圈の諸國は今や求心的に日本に結びつくことが出来るやうになつた。然し東亜共榮圈の指導的位置を永久に維持するためにはかかる文化施設

の拡充によつてのみ充分なへてはなく、根本的には現実な我等の血をそれらの「土地」に結びつけることによつてのみ可能なのである。このためには次の問題が具体的に研究されておなければならぬ。

- (1) 移住適性の問題
 - (2) 移住基地としての日本人町形成の問題
 - (3) 人口及職業配分の問題
 - (4) 配偶者の問題
 - (5) 第二世の問題
 - (6) 混血の問題
 - (7) 母國との連絡の問題
- 特に現地の事情に関する項目として
- (1) 風土
 - (2) 氣象關係
 - (3) 入植地の撰擇

- (4) 学農、職業形態
- (5) 入植の形式
- (6) 教育関係
- (7) 対民族関係
- (8) 交通関係
- (9) 衛生関係
- (1) 食物問題
- (2) 住居問題
- (3) 衣服問題
- (4) 飲料水問題
- (5) 汚水問題
- (6) 保健医療機関
- (7) 娯樂、慰安問題
- (8) 教養訓練問題

(10) 体育（現則的運動）

(二) 生活様式の問題

(1) 住居問題

家屋の自然温度即ち暖房、冷房等を行はず家屋を自然の儘に放置した時の家内温度の研究は防寒防暑の研究上必順の問題である。或時刻に於ける家屋の自然温度は一般に左記の式を以て表はされる。

$$t_n = C + (a + b) \cdot t_{n-1} + d$$

此の式に於て、 t_n は時刻 n の室内温度、 t_{n-1} は時刻 $n-1$ の室内温度、 C は時刻 n の室外温度、 a は時刻 n の室外温度の係数、 b は時刻 $n-1$ の室内温度の係数、 d は時刻 n の室内温度の増減を示す定数である。

熱帯に於ては住居の問題は單に温度、湿度、風向、日照、降雨の問題のみならず氣候條件の季節性に對し採光、通風の變化に當り構造が必要であり、殊に午睡水浴のための施設が要求される。

一般に南方原住民の住宅形式は木の柱で支へられ、居る木の蔭と延の壁の葺屋根の家屋で清潔を保つに極めて困難であり、且つ多くは家族保身上密集して雑居してゐる。従つて汚物處理の改善が先づ當面の問題である。

熱帯の居住民の大部分では貧困が悲惨な住宅を齎してゐる。

如何なる家居が最も熱帯に適してゐるかの問題に対しては今日ですら、科學者は充分な解決を與へてゐない。日本人は開放した家屋を熱帯むきと考へ白人、支那人は黒がラス、暗い家を熱帯の太陽に対する保護物として考へてゐる。

熱帯地域に於ける最良の住宅の或るものは、パナマに於ける白系アメリカ人によつて建築されてゐるものである。此の標準から判断してみると、熱帯オーストラリア、フロリダ、ローデシアに於ける白人の住宅は貧弱であり、コスタリカ、キューバ、ペルトリコ又はセントクリマスに於ける白系の住宅は更に劣悪である。

熱帯に於いて白人の定住を可能ならしめる装置の一つは、冷房換氣装置の問題である。此の換氣装置は極めて多額の費用を要するものであるが、漸時急速に普及しつつある。

かくて熱帯に於ても機械工業が可能となつたのである。即ち、それによつて温度を十度下げると熱帯の氣温は最も好適なものとなるからである。

(2) 栄養問題

開拓民の食物は、生産、配給、貯蔵を計画的に合理的にならしめ自給自足を原則とし、現地に適する経済的且栄養的の調理、献立を必要とする。

北滿及び南洋方面は栄養学上極めて重要な役割をなす野菜が不足して居り甚だしく高價である。主食を白米としてゐる日本人にとつて可及的に種々の動物質食品、穀類、野菜、果実を攝取する必要がある。

科學の進歩は單に熱帶に於ける疾病を防止したのみならず更に、栄養關係を明かにした。食糧は比較的新しい研究分野を構成した。地方別の食事並にそれが健康に與へる影響等についての分析は、生物化學の發展を俟つて始めておし進められたからである。今や科學者はこの問題の重要性を認識するに至つたのである。かくてマツコロラム (Minkolram) は次の如く記述してゐる。

「學者は之迄食料供給の選擇の重要性を人種改造の作用として把握する事に失敗して来た。私は多くの經驗的な觀察の結果として次のやうな見解を持つに至つた。即ち、動物實驗、人文地理、歴史を吟味してみると、總て之等が我々の健康障害の第一原因として擧げられるものが實に食餌である事を指し示してゐると云ふことである。

最近、食物の生物化學は可成りの進歩をとげた。その問題に関する智識は食物の化學的分析と共に増大し、又必要欠くべからざるビタミンの発見と共に急速な進歩を示したのであつた。現に生存を續けて

なる總ての未開種族がその食餌の均衡を得るに成功してゐるとは信じられない。熱帯輿地の大部分の土人は栄養不良である。マツクコラム等は多くの肉食人種が甲狀腺を食へることによつてこの栄養均衡を果してゐると云ふ見解を持してゐる。更に支那農民はミルクは無いけれども米と新鮮な野菜と脂肪の均衡を得た食餌をとつてゐるのである。この均衡を得る食餌の問題は特に熱帯に於ける日本人の定住にとつて根本的な重要性を持つものである。

食餌地理に關してマツクコラム及びバシモンズは継続的に人間の攝取する食餌が三つの地理的環境型として見出され、その二つは熱帯地方に存在すると考察してゐる。即ち一世界の最も溫暖な地域では住民は米を食べて生きてゐる。彼等の食餌は主として植物性のものである。主食物としては米である。それに醬油、澱粉、根菜、あらゆる種類の植物の葉などである。米食種族の食餌に於て、野菜の葉が持つ重要性は大である。人口密度が高いためにミルクを提供する動物をこの米食地帯で大量に飼

養することは困難である。動物性食物としては卵、鶏、豚が挙げられるが、或る地方では可成りの量の魚が用ひられてゐる。かゝる食糧地域に住む種族は、その肉体的な発展に極めて成功して居るのである。

他の成功的な食餌型は熱い乾燥せる熱帯に見出される。其處で住民達は草原地を牧畜場に替へて、人間の食糧の培養場となし生活してゐるのである。此處で多数の人間が消費する唯一のものはミルクである。このミルクに加へて麥、パン、肉、棗椰子等である。かくて熱い乾燥せる熱帯の種族は驚くべき生命力を維持してゐるのである。北オーストラリヤのやうな熱帯牧畜團に於て、若手の白人定住者は恐らくは此の種の食糧に近ひものであらう。

エルスワース・ハンチントンは「氣候の刺激が單調であればある程、その食餌型も亦それだけ偏食に陥り易い」と言ふ小説を支持するに際して悲觀的な觀点からその問題を表明してゐる。如何なる場合にまれ、氣候的因子は一層重大性を持つてゐるものであらう。マツクコラムはハ

ンチントンと遠つて、バハマ島に居たアメリカの王黨員が氣候によつて
ではなくて貧弱を食餌のために衰亡したと考へてゐるのである。

現在の合衆國の南東部に當る暖い氣温の熱帶的地域に於ては、白人移
民は驚くべき食餌即ち豚又はベーコンと苦い珈琲を主要食物としてゐる。
之は熱帶の酷暑の氣候には全く不適な食物と云はなければならぬ。

幸ひ殆んど大部分の南部地域に於て食餌は著るしく改善された。例へ
ば、フランスは、農耕地域は健康を食餌を享受するやうになつたと述べられて
ゐる。例へばその例としてフロリダ州の農耕地域が擧げられる。十月から
六月に至るまで大抵の田園の人々は柑橘類を食べる。殆んど大抵の家は
果樹が植はつてゐる。

十二月から六月又は七月まで、一種又はそれ以上の野菜が豊富にある。栄
養の問題は教育と密接な關係がある。食物慣習の改善は先づ主婦の教育
から始められねばならぬ。白人の農夫の主婦達は俱樂部に集つて食物
改善を相談する。多くの田園労働者が適當な食餌とるかどうかは單なる

経済問題では有くして、寧ろ妻の訓練の問題である。

イタリマ性癩病は劣悪な食事から結果する多くの疾病の一つたるものの様に思はれるとプライスは述べてゐる。

貧困と低い生活水準が十二脂腸やマラリヤの如き疾病を民衆に興へると言ふ事は明らかである。公ニ山が悪化するのには栄養不良と関係する。例へば合衆國果実協会の医師は高い生活標準は忍んど医薬と同様な重要性を持つてゐると述べてゐる。亦、生活標準に於ても季節的変動の問題があり、颶風や蝗の大群などの如き阻害的を要因も作用する。之等のものは穀物と破壊し、熱帯の住民に飢饉と栄養不足と与へた。かくして栄養と調理は健康維持に於て特に重要な意義を持つてゐる。

ビルマに於ける脚氣の著しい特徴は大都市のヒンズー教徒労働者中に起ると云ふことであつてこれは忍んど米ばかり食ひてゐるに基つてゐるがミルク類似の相当量のアツメを攝るものは米を食用する場合に起るビタミン欠乏を恢復し従つて脚氣の発生は少しと報告されてゐる。

イヤー、ルハンソンのアマゾン地域の旅行からの報告は食餌問題に極めて大きな光明を投げ与へてゐる。オリノコ河ではゴム不況の余波を受けて白人は農耕や狩獵、漢獲によつて生計を余儀なく維持しなければならなかつた。

彼等はその孤立に不平を鳴らしてゐるが、その不平にも可成り満足してゐるやうである。彼等は比較的健康を笑ひさんざめいてゐる。全体として密林地帯の河や都辺地帯で見かける同様な集団のものよりは一層元氣に満ち満ちてゐる。

更にハンソンは、リオ・ネグロに於けるサレジアの祖先及びリオブランコに於けるベネデイクティンが新鮮な野菜を植へ且つ食べてゐる。と記述してゐる。マナオの英國人は新鮮な肉及び野菜を買つて食べてゐる。東部ボリビアでは、カチエエラ・エスペランツア及びリベラルタを極めて快酌な所とせるボリビア人及びスイス人は日本移民の手になら新鮮な野菜の供給を仰いでゐる。

ヨロツパ人——オーストリア人及びスペイン人——が数多いが、彼等はその熱帯地域に永年の間住居してゐるものである。彼等は一般にその地域が与へるあらゆる困苦を味つたが彼等は爾余の地域に住む白人と違つて、精神状態に於ても亦肉体的労働に於ても様々の改善を試みたのであつた。而してその地域は、彼等によつて好適な場所となつた。疑ひもなく此の一つの理由は、彼等が庭に樹木を植へ、かくて新鮮な食物を獲得すると云ふ事実に在りである。

パナマ及び北東オーストラリアの場合に我々は、巨大な富と高い生活標準と持った白人社会を觀取することが出来よう。パナマに於ける食餌は好適なものであり、その範圍も広く涉つてゐる。我々は莖性食物が余りにもありふれて居りミルクが無いと云ふ若干の不平等も聞かぬけれども、ミルクや果実、新鮮な野菜が比較的適当な率で盛り合はされて、レストランの食卓をうるほしてゐると云ふ事を我々は發見した。

次にオーストラリアの巨大な熱帯地域に眼を転ずると、其地には数々

の食糧に特徴づけられた地帯を見るであらう。過去に於て打ち上げられたる牧草地からは、家畜の産み出す産物が齎された。交通機関は発達してのなかつたので、之等の牧草地から齎される産物は總てキメラパンによつて齎されたのであるが、近代の交通機関はその問題を著るしく改善したるのであつた。だがドーウインの如き沿岸都市に於てはミルクを獲得するこの困難は深刻なものがあつた。亦、白濠政策のために支那栽植人の減退のために野菜の供給も苦しくなつた。それにも拘らず、古い英國の食糧傳統は依然として続けられてゐるのである。

シレントはオーストリアの尖端に於ける食糧問題を次り如く要約してゐる。食糧の欠乏に關する限りに於て、我々の必要物に對する供給と適当に組織化する道と未だ我々は學んで居らなないのである。それ故、北及び西クウインスランド、オーストラリアの尖端地域に於て、食糧供給の問題はバルクー病から脚氣に至るまで様々な肉類を惹き起してゐる。之等は殆んど食物の欠乏から結果するものである。シドニーの初期の時代がま

さしくその山であつた。當時開墾の尖端はパラマツタで止つて居つたのである。かくて之等の食糧欠乏は、かゝる食物摂取の保守主義の必然の結果として見出されるものである。

所で東クジインスランドに於て此の事情は一層好適である。雨が強く降るので色々の野菜や果実を産み出してゐる。食糧は高原地帯に於て豊富であるし、ミルクも亦有、用をものとなつてゐる。沿岸平野の住民はかくて高原地帯からより大なる食糧を獲得しなればならないのである。

アルコールは熱体全体にとつて好まじからぬものである。熱帯地域に住む白色人種は殆んど總てがアルコールを口にして居り、亦殆んどその水が過度に用ひられてゐると云ふ傾向がある。この真で、英國人たると、アメリカ人、オーストラリア人、或ひは亦オランダ人たると殆んど選ぶ所がない様である。總ての指導的存送者達は、熱帯地域に生活するに際してはアルコールは絶対に避けられねばならぬと云ふ事に意見の一致を見てゐる。例へばカステラニ―は次の如く記述してゐる。『アルコール

曰白没前は絶対に口にしてはならない。何故をらば、人間労働に阻害的
な原因としてそれは働さ。曰射所の最も重大な原因と考へらるからである。
ある。……だが白人達は、殆んど此の事を持つ重要性と認識して
居らない。殆んどあらゆる英領植民地に於て定住者及び旅行家達は、ウイ
スキーが熱帯に於ける白人の健康に必要欠くべからざるものであると云
ふ古い説を信じてゐる様である。熱帯の多くの部分でそれは可成りの改
善をみた様であるが、然し未だ、その状態は、大抵の熱帯の上地では
未解決のままに残されてゐる。ライスの採險に際しても、熱帯に於ける
疾病の主要原因の一つをアルコールに歸してゐるのである。熱帯地域に
於ける白人が何故にアルコールを口にするかと云ふ理由を見出すことは
容易である。強烈な陽の輝きは咽喉を干かす。男や女は何等かの利戟
をとりたいと感ずる。更に之には別の要因が働く。ロイナツシク言に依
れば高い階級にある男は社会的な強制も少く、國內に於けるよりも一般
にサラリーと暇が多い。かくてヨーロッパやアメリカ人達は次第に酒に頼
ミ

じむやうに有る。熱帯に於ける食餌の問題は唯に食物の量や好みの問題では有るのである。好適な氣候地帯の食物標準が直ちに熱帯に適用されること云ふことは尙遠いである。熱帯に於ては身体も何か異つた風に活動する。エネルギーの必要量もより少く、異へられた食物の栄養素は土壌や氣候と共に変容するものであらう。

熱帯は極めてひどい熱がみまわつてゐるので、之が食欲に減退的を効果と与へる。そこで此の減退された食欲は、刺激性の香料によつて回復されるはならぬことになる。總て之が、原因結果として食餌に作用して来ることになるのである。

(3) 飲料水問題

一般に満洲、南洋に於ての給水状態は水質悪く且つ水量不足にして場所によつては雨水をためて使用する。従つてその弊では地方病、傳染病の發生の怖がある。適切なる防疫給水、即ち給水法、淨化法によつて良

水を多量に供給する施設が必要である。

(4) 衣服問題

衣服は防熱、防寒、皮膚の保護、身だしなみ等の機能の爲存するものであるから気温の变化に応じて調節する必要がある。而もその中は單に体温の調節に役立つのみならず作業能率が優れ且つ美的にして品位高さもつて在ければならないのであつてそのスタイルのみならず資材、経済の点から採択されるべきである。

熱帯の大部分の地方では白人が上流階級としての威儀を有するに於て温帯の礼装を酷暑にも拘らず着用してゐる慣習が行はれてゐる。例へば英國のフロックコート、シルクハット、イヴニングドレスは土人達に対して人種的優越性を示すに必要欠くべからざるものと主張されてゐるのである。アジア熱帯ではヘルメットが使用されてゐるが北部オーストラリア及びパナマでは男女とも最も軽い帽子をかぶつてゐる。アメリカのバー

カノ博士は通風の良い熱帯で傳統的なヘルメット帽をかぶることを止め
たら一層健康と有ると述べてゐる。ヘルメット帽は直射熱を防ぐための
ものだからである。湿氣の多い夏にヘルメット帽を被るのは滑稽以上
何物でもない。勿論アジアの熱帯地方に於ける風土的条件は、熱帯アメ
リカ又はオーストラリアも同様とは多くの点で異つてゐるが衣服の問題
は一方では日射病との關係に於て他方では品位維持の問題と関連して考
慮されるは存しない。衣服の科學的研究特に如何なる衣服が最も適し
てゐるかと思ふことについては今まで何等の試みもなされて居らない。
マグロの調査に依れば普通の欧米式衣服は風の冷却降下と約五〇%阻
げる。特にズボンやソックスや靴とはいた場合にその事が言へる。かゝ
る衣服を着て活動すれば、温められるばかりで冷却の余地が殆んど存し
ないからである。

だが全体として熱帯に居住せる白色人の上着とズボンは最近極めて大
きな改善を見た。特に英國は印度に於いてその兵隊の熱のため死亡に

至らしめた時代以来熱帯向衣服を研究し、着用した。又西印度に於ても
改米婦人がヨロソバの衣服慣習を嚴固に踏習したために、熱にむされ
て自殺するものが多かつた時代があつた。然し一般住民の一部には依然
として未だ改善の余地を殘してゐる。

(5) 運動

熱帯に關する科学的な論議には可成り多くの誤まつた見解が述べられ
てゐる。例へば白人の男、更に白人の女はそれより一層、熱帯地に於て
通常の労働に服しては存らなると云ふ誤まつた信條が流布してゐること
などが即ちそれである。

此の説はいまだ科学的な調査研究が行はれなかつた時代に表明されたもの
であるが、氣候條件、健康、或は人種的優越感等にその基礎を置いてゐ
るものである。其の起源の如何をにまじ、この信條は最早や救き差し
ならぬ程強固なものとなつてゐる。

白人のアジア侵入又はアメリカ合衆國入植時代の歴史を概観して見ると、我々は彼等が額に汗して働いたことを観取する事が出来る。エバブランテーシヨン農業に土着労働力を従属させる事により、植民地の経済開発を試みるやうになつてからは、彼等は總てこの労働と土着労働の肩の上に嫁してしまつたと云ふ事が出来るのである。

西インドの證據を吟味して見ると白人が此の諸島に定住することが出来ず、また如何なる種類の労働形態にも携はることが出来なかつた事を観取することが出来るのである。

學者も亦熱帯に於ける白人労働の問題については意見の一致を見せて居らない。ハンソンは次の如く云つてゐる。

「一方に於て彼等は我々に運動が健康には不可欠なものである事を認るが、他方では熱帯に於ては特に慎重に行はねばならぬと語つてゐる。即ちそれには危険が伴ふ勝ちなものである。」と。

熱帯居住者の経験に基いて考へて見ると、婦人は男子より一層熱に弱

く、また運動力もそれだけ低いとされてゐる。殆んどすべての熱帯地域の婦人達は、カード遊びをしたり、なまけたり、酒をのんだりしてゐる。それが通常である。その方が労働したり、運動したりするよりも身体に為がよいとされてゐる。だが、北部クエーンズランド及びオーストラリア北部地域の白系労働者の婦人は、健康にして幸福な人生々話を語んでゐると云ふ事である。

ハンソンはアマゾン河から一つの興味ある場合を引き出して記述してゐる。マラジヨ島の白系牧場労働者は、何処に於ても発見し難いほど活動的な人間が大部分である。之は更に他のアマゾン流域の白人とも異つてゐる。この活力の田々を耕りたる源泉は彼等が四時戶外で日に曝されて労働する所から来てゐるものと思はれる。ハンソンは此のマラジヨ島の事例は慎重に研究を要すべきものとしてゐる。之は最近の来住者ではなく、相当前（三百年前）に来住せる者の後裔だからである。

所でオーストラリアは白濠政策により、殆んど大部分の白人が労働に

從事してゐる社會を構成してゐる。白人の男性及び女性は家庭の仕事と
遂行するばかりでなく、また雇傭労働として屋外の労働に従事してゐる
のである。殊にクアーンズランドに於ける砂糖栽培に於ては多くの白人が
之に携つたのであるが、其の労働適格性如何の問題は季節別に従つて適
不適が未だ決せられる所となつて居らぬ。

要すれば、熱帯に於る白色人種による労働の問題は未だ充分に解答を
与へられて居らぬわけである。運動は必要欠くべからざるものであり、
北國の白人ですら、若し健康と経済的條件が充分であるならば、熱帯地
であらゆる種類の労働を遂行することが可能であるやうに思はれる。規
則正しい運動と午曝と水浴は熱帯に於ける最も必要を健康維持法であら
う。主なる種類の運動は夕方、テニス、水泳、フットボール、及び涼風
に吹かれるドライブである。

(6) 教育関係

在米海外邦人の指導啓発は其の在住國の施政方針、社会状態、渡航目的、職業、経済力、素項、人口数等によつて其の方法を異にし又第一世二世、三世混血児によつても措置を異にすべきも、その主要なるものは開拓政策が國運の発展と諸民族の指導である限り次々如くであらう。外邦人の子孫にして日本語に親まざる結果日本精神を忘却するものがないでもない。従つてそれを防止し、更に進んで日本民族の優秀性の自覚と指導民族の自負とを涵養するためには次の如き施設を必要とするであらう。

- 一、學校設備の充實
- 二、邦語教育の強化
- 三、青年団の結成、俱樂部の設立
- 四、母國への留学等の連絡
- 五、新聞雜誌、映画、ラヂオによる啓発

六、座談会、講演会の開催

七、宗教布教

(7) 実験基地の設置

入植地区が大東亜全般に亘つて広汎に拡大された今日全く風土、社会的條件を異にした全地域に單一な行政、衛生政策を徹底的に行ふことは困難である。

従つて先づ各地域一個所乃至數個所に開拓実験村を遂定し、その結果によつて指導方法を確立しそれを漸次新しき開拓地に拡張すべきであらう。

